



伝統的住生活文化に関する教育・研究活動 ～畳を中心として～

教育学部 教授 正岡 さち

正岡研究室では従来より伝統的住生活文化に関する教育・研究活動を行って来ました。その中でも、主に日本の伝統的床材である畳を中心に取り扱っており、地元の畳店さんとのコラボによる活動も行っています。

伝統文化理解を目的として、畳店さんの見学会や、家庭科教育副専攻の学生達が教材化の一環として畳の材料を使ってグッズを作成する1000時間体験学修活動を行いました。材料は地元の畳店さんから提供を受けました。材料には、例えば、畳を作られた時に出た畳縁の端切れ等が含まれており、それらを捨てるのではなく教材として有効活用する等の意味があります。

これらの活動は、小学校・中学校・高等学校向けの家庭科の授業や、小学校教育専攻における「実践基礎C」「教職実践演習」に活かされています。

随分前から、教育面では「ビビット広場」「教員免許更新講習」等の活動を、研究面では当該教員が国際学会発表時に畳グッズの配布・プレゼンを行う等の活動をしており、それが現在の活動につながっています。

近年は、その活動から派生して、伝統文化であるとともに総合文化である「茶道」を授業に取り入れる活動も行っています。

